

首都圏のレンタルおしぼり各社は、独自技術を使った専用冷温庫の開発やおしぼりの輸出、ユニホームのレンタルなど相次いで新規事業に乗り出す。顧客である飲食店の減少や使い捨て式紙おしぼりの普及により、レンタルおしぼり需要が減少していることが背景にある。レンタル方式に軸足を置きながらも新分野開拓の動きが加速しそうだ。

(さいたま・石井栞)

### 中小7社と協力

FSX（東京都国立市、藤波克之社長、042・576・9131）は、独自開発の特許技術「空気循環型冷温システム」を採用したおしぼり冷温庫「REION（レイオン）」を4月中旬に発売する。コアエンジンを開発し、庫内に温度制御した空気を循環させることで急冷却・急加温と温度の均一性を実現。設計や開発は同社を中心に国内中小企業7社が協力した。

おしゃれなデザインで、美容院などの利用を見込む。L型とS型の2サイズで展開する。L型は幅450mm×奥行338mm×高さ73mmで約30号のおしぼりを約66本収納でき、価格は13万円（消費税抜き）。対応温度は5度〜75度C。

# おしぼり「潤す」新事業

## レンタル需要縮小に歯止め

# 理美容・防災活躍の場

S型発売は今夏以降になる予定。

日本貿易振興機構（ジエトロ）の支援の下、米国にある日系チェーンレストランへの

おしぼりの輸出販売を決めた。パークウインターやレストルームのアーニティとしてアロマのおしぼりを年間約4万本輸出する予定。

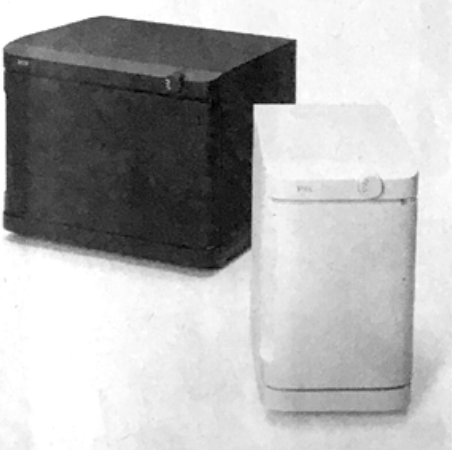
また、業界で初めて化粧品製造業・製造販売業許可を取得した。

成分効能を表記できるようにになり、これらを強みに美容・医療分野へおしぼりの提供を

デザインを重視したFSXのおしぼり冷温庫「REION」

「REION」

「REION」



## 特許で保管庫開発 ユニホームを供給

冷温技術  
配送網活用

進めていく。藤波社長だ。は「業種は変えずに業態を変えている」と語る。同社の2017年8月期の売上高は20億2500万円、18年8月期に22億円を目指す。

### 非飲食店増やす

栃木県内でレンタルおしぼりのシェア8割を誇る三協（栃木県さくら市、添田敏夫社長、028・682・2930）は、既存の販売ルートを生かし、タオルやユニホームのレンタルを展開する。顧客の要望で、約4500万円を投じ、業務用洗濯機や乾燥機を導入。タオルは美容室や整体院、リラクゼーションサロンに、ユニホームは洋菓子やパン工場などにレンタル需要がある。レンタルおしぼりの配送ルートを活かす。添田泰弘専務は「今後、おしぼりで得意とする飲食店以外の業種に顧客を増やしていきたい」と意欲的

備蓄用ウエット エットタオル「KURUMOMI」を開発した。タオルと液体を別パOUCHに分離し、使用時に液体部分を押し出さず。今後は、防災備蓄用だけでなく熱中症予防など屋外利用も想定し、改良を進める。酒巻社長は「同業と競争するよ